

製品名: 切断型 CD97 α (L530) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08980**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	55kDa

抗原情報

遺伝子名	CD97
別名	CD97; CD97 antigen; Leukocyte antigen CD97; CD antigen CD97
遺伝子 ID	976.0
SwissProt ID	P48960
免疫原	抗血清はヒト CD97 α 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 481-530

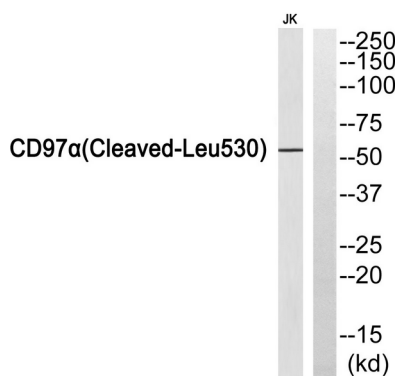
背景

この遺伝子は、細胞間相互作用を媒介する接着 G タンパク質共役受容体の EGF-TM7 サブファミリーのメンバーをコードしています。これらのタンパク質は自己触媒的タンパク質分解によって大きな細胞外サブユニットと 7 回膜貫通型サブユニットに分解され、

細胞表面で受容体複合体として会合します。コードされているタンパク質は、細胞接着、白血球の動員、活性化、遊走に関連している可能性があり、コンドロイチン硫酸および細胞表面補体制御タンパク質 CD55 への結合を媒介する複数の細胞外 EGF 様リピート配列を含んでいます。この遺伝子の発現は、いくつかの種類の癌の進行に関連している可能性があります。この遺伝子には、3~5 個の EGF 様リピート配列を持つ複数のアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが観察されています。この遺伝子は、染色体 1 の短腕上で他の EGF-TM7 遺伝子とともにクラスターを形成しています。ドメイン: コンドロイチン硫酸への結合は、4 番目の EGF ドメインによって媒介されます。ドメイン: 最初の 2 つの EGF ドメインは、DAF との相互作用を媒介します。3 番目のタンデムに配置された EGF ドメインは、結合領域の構造的完全性に必要です。機能: 白血球活性化後の初期段階における接着プロセスとシグナル伝達プロセスの両方に関与する可能性のある受容体です。白血球遊走において重要な役割を果たします。誘導: リンパ球活性化中の急速な上方制御。PTM: タンパク質分解によって 2 つのサブユニット (細胞外 α サブユニットと 7 つの膜貫通サブユニット) に切断されます。類似性: G タンパク質共役受容体 2 ファミリーに属します。LN-TM7 サブファミリー。類似性: 1 つの GPS ドメインを含む。類似性: 5 つの EGF 様ドメインを含む。サブユニット: 7 つの膜貫通部分 (ベータサブユニット) に非共有結合した大きな細胞外領域 (アルファサブユニット) からなるヘテロダイマーを形成する。補体崩壊促進因子 (DAF) と相互作用する。最大のアイソフォーム (アイソフォーム 1) はコンドロイチン硫酸と相互作用する。組織特異性: 活性化リンパ球、単球、マクロファージ、樹状細胞、顆粒球など、ほとんどの造血細胞に広く発現している。平滑筋細胞にも豊富に発現している。甲状腺癌、大腸癌、胃癌、食道癌、膵臓癌にも発現している。多発性硬化症の CNS および関節リウマチ患者の滑膜組織では、炎症条件下で発現が増加する。滑膜における CD97 の発現の増加は、滑液中の可溶性 CD97 の検出可能なレベルを伴います。

研究分野

画像データ



CD97alpha (Cleaved-Leu530) 抗体のウェスタンブロット解析。右レーンには CD97alpha (Cleaved-Leu530) ペプチドでブロッキングされている。